

地域防災力向上に向けた住民主体の取り組みについて

砂防フロンティア整備推進機構：○佐光 洋一，山口 悠

松本砂防事務所：五十嵐 祥二，永野 正千^{※1}，土居 崇史^{※2}

(※1：現 北陸地方整備局企画部，※2：現 黒部河川事務所)

松本市 奈川地区地域づくりセンター：小林新蔵，南喜八郎，良波圭哉

1. はじめに

今回紹介する地域防災力向上の取り組みは、松本市奈川地区（旧奈川村）南部7町会をモデル地区として実施した。

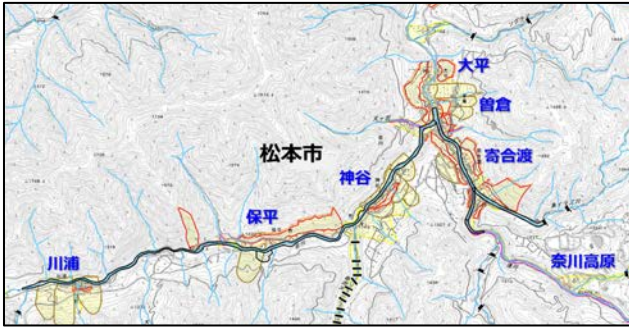


図1 モデル地区の位置

奈川地区は、松本市域の南西に位置し、東西11km、南北14kmにわたり面積は117.65km²周囲を2,000m級の連峰に囲まれた平地の少ない溪谷地帯で、西に乗鞍岳、東に鉢盛山を望み、野麦峠方面から南北に流れる奈川の河畔に沿って、標高1,200m前後の地域に14の集落が点在している。

本地区では、昭和58年9月28日、台風10号によって、総雨量289mm、最大時間雨量37mmという未曾有の豪雨が発生し、沢という沢から土砂が流出した。特に砂防堰堤が設置されていない沢では、下流まで土砂や流木が氾濫し、大規模な土砂災害となった。保育園の損壊や川浦公会堂の流失、そばの里奈川への土砂流入など、全壊4戸、浸水36戸、400世帯1400人が孤立という被害が生じた。



写真 被災状況（そばの里奈川周辺）

本取り組みは、上述のような災害体験を風化させず、土砂災害発生の危険性が高まった時等に地区住民が適切な警戒避難の対応（自助、共助）をとれる

よう、地区住民自らが主体となった検討会（ワークショップ方式）を実施し、「土砂災害ハザードマップ」、「防災行動計画」を作成したものである。あわせて、著者らは、本取り組みの技術支援、作成補助と本取り組みを先行事例とした他地域への水平展開のための手順書（ガイドライン）の作成を行った。

2. 地域防災力向上に向けた取り組みの概要

2.1. 検討会等での取り組み

本取り組みは下図に示すとおり、検討会3回、地区全住民（世帯）を対象としたアンケート、作成した土砂災害ハザードマップ（案）等に関する町会毎の意見交換を実施した。

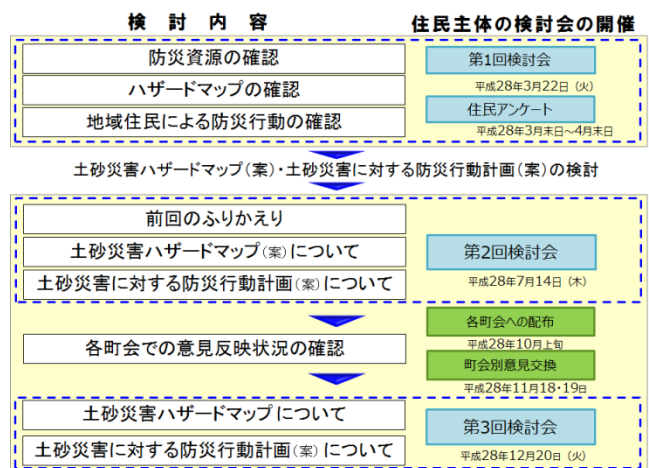


図2 検討等取り組みの手順



写真 検討会での協議の状況

第1回検討会では、災害時に活用可能な防災資源や当該地域のハザードに関する情報のあぶり出し、実際に災害のおそれがある際にとるべき避難等の防

災行動、緊急時に協力できること等の意見交換を行った。また、アンケートでは第1回検討会の内容を補足する情報の収集と、住民の土砂災害に対する認識などを把握した。

第2,3回検討会では、第1回の結果を踏まえ、著者らが作成支援した土砂災害ハザードマップ、防災行動計画等の原案(たたき台)を提示し、以下のポイントで意見交換を行った。

- ハザードマップ等の追加・修正・削除が必要な項目・内容
- 地図や枠外等の掲載項目の見やすさ、使いやすさ
- 各町会でとるべき行動、関係する情報の追加・修正・削除
- とるべき行動の時期(タイミング)
- 各町会として無理のない行動計画か
- 具体的な住民各自の役割分担

また、第2回と第3回の検討会の間では、町会毎に住民集会等での補足的な内容確認、意見聴取や代表者ヒアリングを行い、意見要望の把握に努め、内容の充実を図った。



図3 土砂災害ハザードマップ(例)



図4 防災行動計画(例)

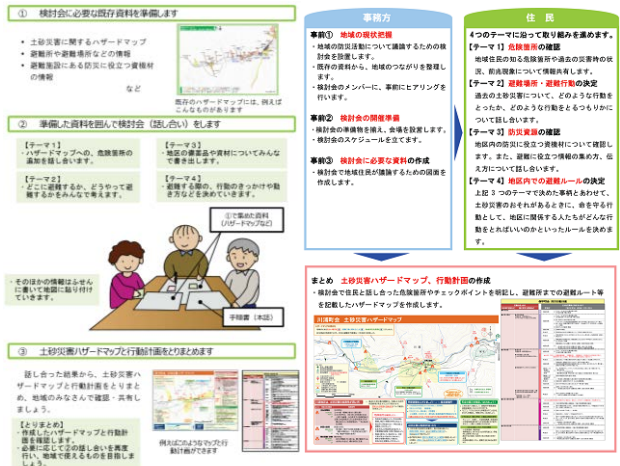
2.2. 取り組み結果

検討会およびヒアリングを経て得られた住民からの意見をもとに「土砂災害ハザードマップ(図3)」、「防災行動計画(図4)」を作成支援した。イラストや写真、文字の字体や大きさ等を活用・工夫し、見やすく、理解しやすい計画となるよう努めた。

また、これらの資料を住民が活用しやすくするための方法を示した「副読本(ガイドブック)」を作成した。

3. 他地域への水平展開について

松本市奈川南部地区をモデル地区として実施した地域防災力向上の取り組みを、松本砂防管内の5市村等で水平展開を図るため、その指針となる「住民主体の土砂災害に対する事前防災行動計画の作成手順書(ガイドライン)」の作成検討を行った。手順書としては、住民が自ら検討会の準備からアウトプットの作成まで取り組めるよう、解りやすい「住民配布用」と、この取組みの実施を促進するための「行政担当版」も追加して作成した。住民配布用は平易な言葉とイラストを多用しての説明を心掛けた構成とし、行政担当版は実際の場面を想定した詳細な説明を加えている(図5)。



住民向け版 行政対応版
図5 手順書(記載抜粋)

4. まとめ

本発表では、平成27~28年度にかけて実施した住民が主体として地域防災力の向上に取り組んだ結果を紹介した。本取り組みに参画いただいた松本市奈川南部地区の住民の方々は、非常に積極的にご参加頂き、自らが活用するための意見・要望等の協議も活発に行って頂いた。検討会の最後には住民代表より「これで完成では無く、日々意識し適宜見直ししていこう」とのお話も頂いた。

また、著者らは、これらの取り組みを支援するとともに、本取り組みの他地域への水平展開のための検討を行った。今後の活用が望まれる。